

授業科目 解剖学 II

【担当教員名】 西野 幾子		対象学年	1	対象学科	理学・作業
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎		◎	○	◎	
【概要・一般目標：GIO】 解剖学 II では、人体の基本的構造を全体的に理解する。特に運動器、神経系以外の器官・組織系、内臓系（消化器、呼吸器、泌尿生殖器）、循環器系、感覚器系、内分泌系について、それぞれの形態・構造を理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織を構成する細胞の構成要素の名称と簡単な機能を説明できる。 2. 種々の組織の分類とその特性を概説できる。 3. 消化器系を構成する器官、その付属器の名称、位置を説明できる。 4. 鼻腔から肺胞に至る気道を構成する各器官の名称、位置を説明できる。 5. 泌尿生殖器系を構成する器官の名称、位置ならびに簡単な機能を説明できる。 6. 主な内分泌腺の名称と位置、分泌されるホルモンの名称を言える。 7. 心臓の位置、各部位の名称を言える。大循環・小循環を概説できる。 8. 特殊感覚を司る各器官の名称、位置ならびに簡単な作用を概説できる。 9. 人体の発生の概略を理解し、説明できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	細胞学：細胞のなりたち			1	講義
2	組織学：組織のなりたち			2	講義
3	組織学：四大組織			2	講義
4	内臓学：総論と消化器系			3	講義
5	内臓学：消化器系			3	講義
6	内臓学：呼吸器系			4	講義
7	内臓学：泌尿生殖器系			5	講義
8	内臓学：泌尿生殖器系			5	講義
9	内分泌系			6	講義
10	循環器系：総論と心臓			7	講義
11	循環器系：大循環と小循環			7	講義
12	感覚器系：総論と味覚器、視覚器			8	講義
13	感覚器系：聴覚器、嗅覚器、外皮			8	講義
14	発生学			9	講義
15	発生学			9	講義
【使用図書】		<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他>			
教科書 (必ず購入する書籍)		≪標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野≫解剖学 野村 巖 医学書院 2010・6,000円＋税 (第3版)			
参考書		人体解剖学(改訂第42版) 藤田恒太郎 南江堂 2003・9,500円＋税			
その他の資料					
【評価方法】 出席状況・態度(遅刻、私語、居眠り等)、期末試験の総合評価		【履修上の留意点】 勉強範囲が広いので、日頃の復習が重要です。場合により小テストを実施する可能性があります(その場合、小テストの点数は評価に含めます)。			